

第10章 森や林の樹木観察

ねらい

日本の代表的な森林は、だいたい山地帯に限られているが、私たちの身近なところには、規模の小さい森や林がある。

このような森や林には、マツ林や雑木林、スギ林などがあるし、神社や寺の境内にはうっそうとしげっているところも見られる。この中には、自然にできてきたものや人工的に植林したものもある。それぞれの特徴を調べることによって、森や林をつくる植物相互の関係を知ることができる。

また森や林の中で、児童・生徒が五感を使って（見るだけでなく、触れたり匂いをかいだりする）観察し、自然に対する関心を高め、自然を大切にする態度を育てる。

準備

ノート、筆記具、地形図。

方法

- 1) 森や林での植物相互の関係を調べる。この場合、指導者側から調べることについて指示する。たとえば、「樹形や樹冠を観察し、スケッチしなさい」等。
- 2) 尾根筋と谷筋があれば、代表的な樹種のちがいや下草の量に注意を向けさせる。
- 3) 森や林の中で、じっくりと見て、時には植物に触れたり、においをかいだりさせ、気づいたことを記録させる。

まとめ

森や林では、十分にまとめることができないので、事後学校でスケッチや記録をもとに

まとめる。

指導上の留意点

- 1) 森や林では、時として危険なことにあうことがある。十分に注意し、安全な行動をとるようにする。
- 2) 必ず事前に下見をしておく。
- 3) 自然に対する思いやりが大切である。
- 4) 採集することより、森や林のあるがままの姿を見せる。採集が必要なときは、最小限にとどめる。
- 5) 事前に、植物を必要以上に採らないことやゴミをださないことの指導をしておく。
- 6) 多人数で、森や林に行く場合、あれもこれもと盛だくさんの内容よりも、3か所ぐらいに重点をおく。また、せまいところで多人数がかたまらないような配慮をする。
- 7) 服装に留意する。



山の中の雑草群落
(ダムの砂上の草本調査)

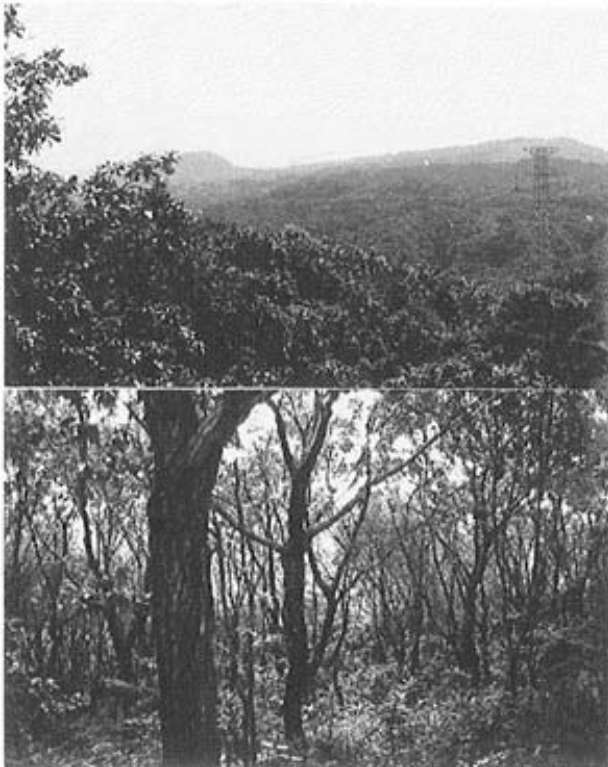
1 瓢箪山から鳴川園地

生駒山系には大阪府の「府民の森」として7つの園地がある。なかでも最も広い(170ha)のが「なるかわ園地」である。周辺は谷筋、稜線や尾根筋の雑木林の観察に適している。また中心部は自然公園として整備が進み、植栽された花木類も多い。かつては燃料用に、今はレクリエーション向きに管理された林であるが、市街地からたいへん近いこと、人数が多くても歩きやすいことなどを考えると、身近な自然学習に適した場所である。交通。次頁参照、近鉄奈良線瓢箪山駅、または枚岡駅。観察ルートの距離、7km。地形図「信貴山」。

主な観察内容

- 1) 人為的に地形を変えた後の植生 場所2。鳴川谷は急傾斜でいくつもの砂防ダムがある。それぞれの場所では多くの一年生草本やススキなど多年生草本とともに、荒地に生える木本類(パイオニアツリー)の小さなものを見つけることができる。谷の上流へ行くほど新しいダムなので、木本が侵入する前の草本のみの様子など、植生の移り変わりを推測することができる。
- 2) 稜線のアカマツ林 場所4。現在は園地として林床管理されているが、ほぼアカマツだけの林となっている部分がある。
- 3) 落葉広葉樹の林 場所5。鳴川峠と暗峠の間の稜線沿いの東側は園地の外である。ここでは多くの種類の落葉広葉樹が混じっている様子が観察できる。たとえば、コシアブラ、タカノツメ、ネジキ、リョウブ、コナラ、クヌギ、ナラガシワなど。それらに混じって常緑樹のソヨゴやイヌツゲの小木がある。稜線の西側(場所3)や園地管理事務所(場所7)周辺では、よく手入れされたコナラとクヌギの林がある。両方を比較すると、限られた樹種の林を維持しておくためには、定期的な下草刈りなどの一定の条件を加え続けなければならないことが理解できる。

- 4) 枚岡神社裏山の林 この地域は近年ほとんど手を加えられることがなかったため、周辺の落葉樹の林とは一見して異なる。常緑のカシの仲間、ハイノキの仲間が多くなっており、道沿いもそれほど明るくない。
- 5) 園内広場の植物 (植栽された樹木、万葉植物)。場所 6。園沿いに万葉集に詠われている植物数十種があり、展示園では万葉の草花も植栽されている。
- 6) 人工林とマント植物 場所 1。スギの人工林があり、おくのほうはほとんど光が入らない。そのため林床は暗く、植物がほとんど見られず、道路に近づくにつれ光が入りシダ類やアオキが見られる。また道路ぎわのマント群落には、イヌビワ、ヌルデ、クサギ、ハゼ、ムラサキシキブ、モミジイチゴなどが見られる。
- 7) どんぐり調べ 場所 8。このあたりには、ブナ科の植物がみられる。落葉樹のクヌギ、アベマキ、ナラガシワ、コナラなどを見つけることができる。秋にはどんぐり(堅果)やそのお皿(殻斗)を調べることによって、いろいろな種類のどんぐりがあることがわかる(「どんぐりの観察」を参照)。



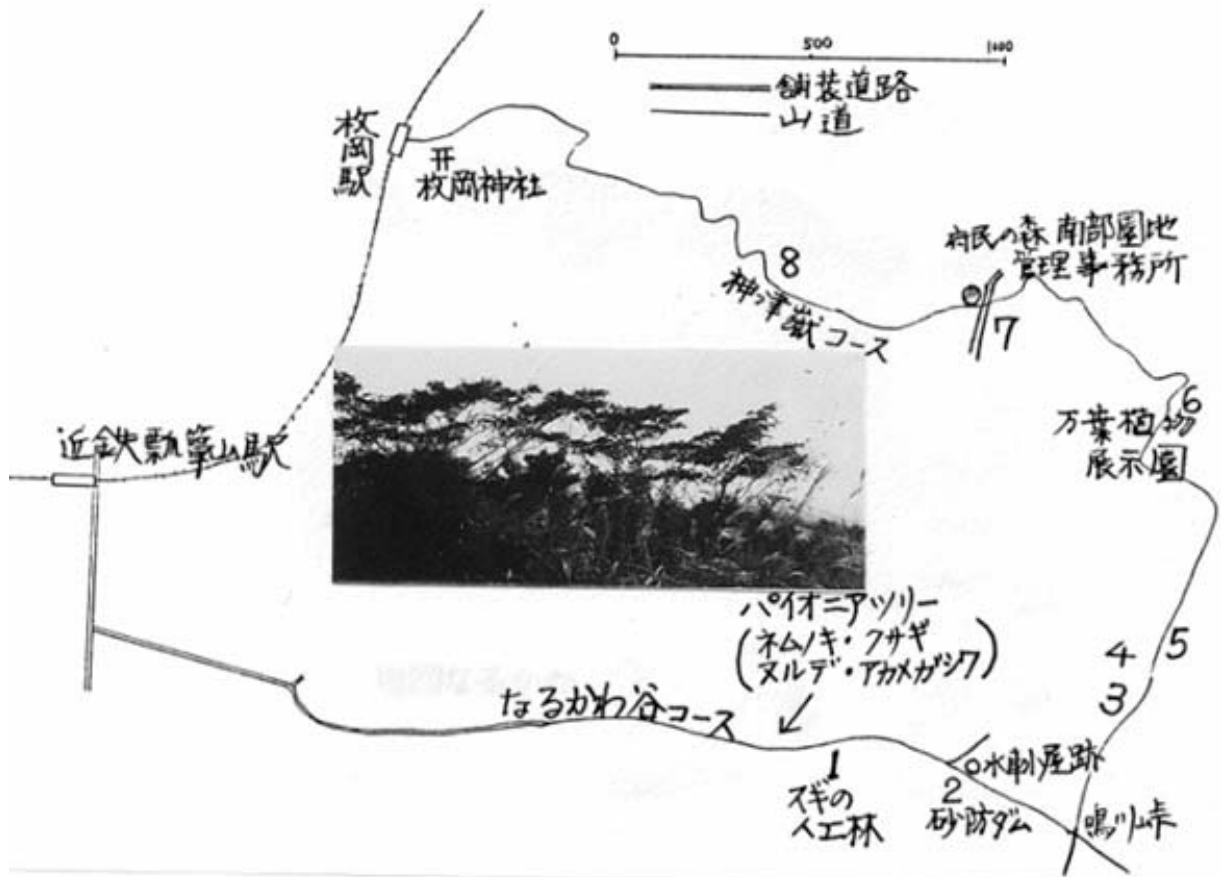
生駒山の雑木林

コナラ、クヌギ林

むかしは大阪のエネルギー源(薪炭林)

今「府民の森」

観察コース



2. 天見から岩湧寺

大阪府では南部のこの地域は、和歌山県との府県境に近い岩湧山の北面一帯である。民家が点在する林業の地であるが、植林された人工林だけでなく、雑木林や自然植生（社寺林）を観察することができる。また人々に利用されてきた山（里山）もある。一方で古い神社や寺院（流谷八幡神社、岩湧寺）の周辺では、近年ほとんど人手の入らなかった自然林や大きな木を見ることができる。大阪府下でも植物種の多い地域とされ、四季を通しての植物観察に適している。交通：次頁地図参照。南海電鉄高野線「天見」。南海バス「青葉台」。観察ルートは約 10km。地形図：「岩湧山」。

主な観察内容

1) 人工林と林床の植物

場所は 3 と 5。ヒノキとスギの植林があり、3 では林床にシダ類やアオキが多い。5 は新しい植林地で、内部はほぼ真っ暗、林床植物はほとんどない。林縁に茂る植物を観察することができる。

2) 人為的に地形を変えた後の植生

(植生の移り変わり)。場所は 4。ループ状に切り開いた（昭和 50 年）林道があり、ネムノキ、ヌルデ、クサギ、ヤシヤブシ、アカマツが多い。これらは裸地や放置された荒れ地に初めに茂る樹種である。場所 2、6 は砂防ダムの周辺でやはり低い陽樹が多い。

3) 谷沿いの大木（大きな木の樹形）



クスノキの樹冠（上）と内部から真上を見上げた様子

場所は8。加賀田の川沿いにはケヤキの大きな木が点在しており、その特徴ある樹形を遠くからでも見ることができる。ケヤキは谷沿いに見られる大きな木の代表である。

4) 流谷八幡神社の森 場所1。照葉樹の森。

シイ、カシを中心とする天然林である。社殿の近くにはクスノキ、イチョウの大木がある。クスノキを真下から見上げると、光を有効に受ける樹冠のつくりが観察できる。イチョウは樹齢700年以上といわれている。

5) 岩湧寺周辺の樹林 場所7。

草本、木本をとわず種類が多く貴重な地域である。都市公園などとは違い、自然のままに生えている草本、木本の状態を見ることができる。カエデ類、トチノキ、カヤ、コブシなど。境内のスギの樹齢は400年以上といわれている。

